

— あさひ燦々 —

理念 信頼される医療、誇れる医学

第24号



新病院南側イメージ図

新棟整備工事について

当院は、地場産業である窯業によるじん肺患者の専門医療機関として昭和35年（1960年）6月に開設され、診療体制は内科、外科、放射線科の3診療科、病床数200床で中部労災病院の分院として診療を開始し、昭和37年（1962年）9月に独立、その後の地域における医療ニーズに対応するため、増築、増床を重ね17診療科、病床数250床の急性期病院としてその機能を維持してきました。

しかしながら、開院以来57年間の経過し、建物の老朽化や機器整備等の劣化が著しく、また繰り返し行われた増改築により建物が分散し、患者動線及び物流搬送において機能的でない状態となっており、良質な医療の提供に大きな支障をきたしておりました。

この度、地域の皆様をはじめ、地域の医療機関の方々にご支援・ご協力のおかげで、いよいよ新棟整備工事を着工することとなりま

した。

本来なら、平成28年2月の着工で、平成30年11月に新病院をオープンする計画でありましたが、設計の見直しにより着工が遅延となりましたことを改めてお詫び申し上げます。

設計の見直しにより、職員一同で将来の病院の在り方を再検討し、地域における旭労災病院の役割を明らかにするとともに、その役割に見合った規模や機能など、目指

すべき新病院のビジョンを作り、「コンパクトで骨太の新病院」に建て替えるという基本構想を作成しました。

そして、この基本構想を基に、平成29年7月頃から工事に着工して、平成31年5月に新病院をオープンします。その後、現病院を解体するとともに駐車場を整備して、平成32年5月頃の全体竣工を目指して建て替えることとしました。

竣工までの工程

平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
7月頃着工			
新病院棟工事		★5月開院	
		旧病院棟解体	
		駐車場・外構整備	5月頃全体竣工

新病院の完成まで約3年間という長期にわたる工事となりますが、地域の皆様のご協力を得ながら工事を進めていきたいと存じますので、どうぞよろしくお願いいたします。

新病院の建て替えにあたっては、特に次の事項に配慮しています。

1) 周辺環境に対する配慮

- ・近隣住宅地に配慮し、圧迫感や日陰の影響を軽減する建物配置計画とする。
- ・騒音規制や周辺への景観に配慮し、室外機置場には目隠し壁などを設置する。
- ・既存緑地を極力生かすとともに、敷地内を効率よく緑化し、良好な景観形成を図る。

2) 機能性の向上

- ・院内の各部門を効率よく配置し、動線（患者・医療・物品）の短縮化や動線の交錯を低減した機能性の高い平面計画とする。（救急と放射線、内視鏡、中央処置の隣接配置等）

- ・一般外来診療は1フロアで完結できるよう、外来部門、放射線、生理検査、中央処置、内視鏡を1フロア（1階）に集約配置する。

- ・人工透析、化学療法はプライバシーに配慮し、一般外来患者の往来が少ない2階に配置する。

- ・傾斜敷地の特性を活かし、B1階にサービス車輛用、1階に一般用の出入口を設け、機能分けした効率的で安全な交

通計画とする。

3) 患者サービスの向上

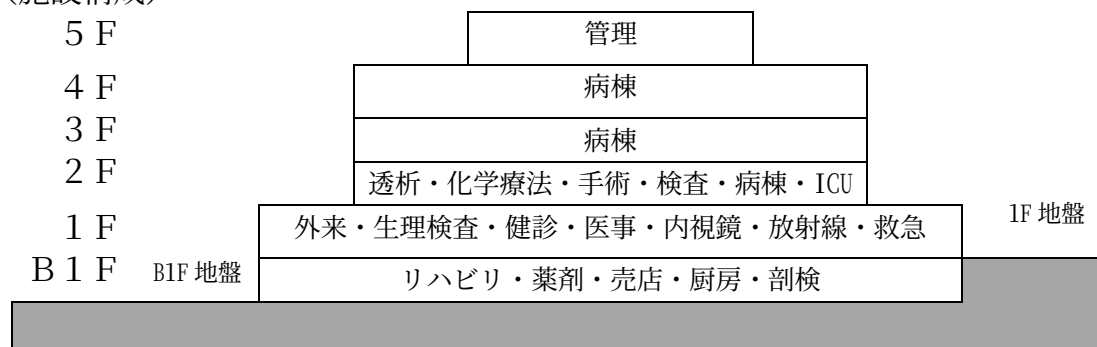
- ・患者のアメニティ及びプライバシーの保持に配慮した計画とする。
- ・ユニバーサルデザインを常に心がけ、誰にでも使いやすい施設の実現を図る。
- ・コンパクトで分かりやすい平面形状とし、適切なサイン計

画と合わせて安全性の向上を心がけ、動線が分かりやすい施設とする。

4) 安全性の確保

- ・病院入口には大きな庇を設け、雨天時にも安全に車の乗降ができる計画とする。
- ・患者、高齢者が使用する建物として、ユニバーサルデザインにより安全性の配慮を行う。

(施設構成)



最後になりますが、「地域の皆様に信頼され貢献できる病院」そして、地域に根差した「コンパクトで骨太の新病院」を目指して、職

員一丸となって、新しい病院作りに努めたいと思いますので、これからもご理解とご協力のほどよろしくお願い致します。



新棟東側イメージ図（正面玄関）

1階新棟エントランスイメージ図



駐車場のご利用について

新棟整備工事に伴い、**平成29年7月29日（土）**から来院者用駐車場（旧第1・第2駐車場）がご利用できなくなります。

ご来院者の皆様には、大変ご不便をおかけしますが、新病院オープンまでの期間（平成29年7月～平成31年5月）については、**新第1第駐車場及び新第3～第7駐車場**のご利用をお願いいたします。

館内に入るには高低差のある駐車場となっていますので、工事期間中は仮設の館内入口（7病棟前）をご利用ください。

なお、駐車場通路は安全確保の

ため構内を一方通行（反時計周り）で外周することとなっていますのでご留意ください。また、送迎の車につきましても同様に患者さんの乗降後に構内を一方通行で外周することとなっています。

身障者用の駐車場につきましては、専用駐車場を用意していますので、ご利用の際にはお手数ですが病院総務課（代表電話０５６１－５４－３１３１）まで予めご連絡をお願いいたします。

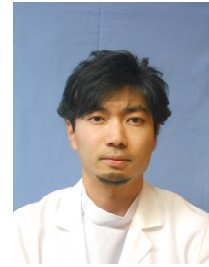
皆様には、大変ご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。





いびきについて

耳鼻咽喉科副部長
清水 崇博



眠っている時いびきがうるさい、呼吸が止まっていると言われることはないでしょうか。また、しっかり寝ているのに日中に強い眠気、疲れを感じたり、夜中に何度もトイレに行くことはないでしょうか。その症状はひょっとしたら、**睡眠時無呼吸症候群**という病気のせいかもしれません。

いびきは、睡眠中に空気の通り道であるノドが狭くなり、そこを空気が通る時にノドの壁が振動することによって生じる音です。いびきをかくということは、睡眠中にノドが狭くなっているということです。狭くなったノドが塞がると呼吸が止まり、睡眠時無呼吸症候群(閉塞性睡眠時無呼吸症候群)になります。ノドが狭くなる原因としては、加齢による筋力の低下、肥満による舌やノドの肥大、軟口蓋が低い、顎が小さい、扁桃肥大などがあります。



睡眠時無呼吸症候群になると睡眠時に酸素欠乏状態になり心臓や血管に負担がかかり、この状態が毎日、長期間続くことで全身に様々な合併症を起こす可能性があります。代表的なものとして、**脳卒中は約4倍、高血圧は約2倍、虚血性心疾患は約3倍、糖尿病は約2倍の起こりやすさ、また交通事故の発生率も7倍**といわれています。

睡眠時無呼吸症候群は自覚症状だけでは気付にくい事もありますが、男性で49.7%、女性で23.4%に中等度の睡眠時無呼吸症候群があるという報告もあります。気付かずにいると様々な合併症のリスクになりますので、気になることがある方は、お気軽に当院耳鼻咽喉科又は近隣の病院までご相談ください。

